



# 名大トピックス

No.128 平成16年1月30日発行 名古屋大学総務部企画広報室 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Te(052)789-2016  
ホームページ URL <http://www.nagoya-u.ac.jp>

## 名古屋大学「東京フォーラム」が開催される



### CONTENTS

- |  |    |   |    |
|--|----|---|----|
| ・名古屋大学「東京フォーラム」が開催される.....                           | 2  | ・博物館が地下鉄開通記念コンサートを開催する.....                 | 10 |
| ・環境総合館竣工記念式典が開催される.....                              | 4  | ・農学国際教育協力研究センターが2003年度第3回オープンセミナーを開催する..... | 11 |
| ・名古屋大学医工連携シンポジウムが開催される.....                          | 6  | ・総長等表敬訪問一覧（平成15年10月～12月）.....               | 11 |
| ・地下鉄名城線「砂田橋 - 名古屋大学」間が開通する.....                      | 7  | ・年末の屋外清掃が実施される.....                         | 12 |
| ・大学院生命農学研究科がアジア農科系大学連合理事会を開催する.....                  | 8  | ・第26回名古屋大学OB・職員懇談会が開催される.....               | 12 |
| ・年代測定総合研究センターと大学院文学研究科考古学研究室が第5回考古科学シンポジウムを開催する..... | 9  | [ INFORMATION ]                             |    |
| ・博物館が第29回特別講演会を開催する.....                             | 10 | ・イベント等の開催予定一覧.....                          | 13 |
|  |    | ・本学関係の新聞記事掲載一覧（15年12月分）.....                | 13 |



## 名古屋大学「東京フォーラム」が開催される

名古屋大学「東京フォーラム」が、12月17日（水）東京の一橋記念講堂（学術総合センター）及び如水会館において開催されました。このフォーラムは、21世紀 COE プログラムに本学から13拠点が採択されたのを機に、我が国の学術研究の差し迫った課題を広い視点から捉え直し、同時に産学連携の契機を関東地区に

おいて提供するために企画されたもので、当日は、予定定員を上回る850名の参加があり、本学の研究教育に対する関心と期待の高さを伺わせました。

第一部は、「学術研究と21世紀 COE - 名古屋大学における基礎研究から応用研究まで -」をテーマとし、松尾総長のあいさつに続いて、野依良治理化学研究所理事長（本学特任教授）が基調講演を行い、我が国の学術研究について見解を述べました。続いて行われたパネルディスカッションでは、松尾総長が進行役を務め、野依特任教授の他、黒田玲子東京大学大学院教授（総合科学技術会議議員）末松安晴国立情報学研究所長（21世紀 COE プログラム委員）及び丹羽宇一郎伊藤忠商事株式会社社長（全学同窓会副会長・関東支部長）の4名のパネリストによって、大学における人材育成、企業から大学への期待などについて、忌憚のない発言が活発に交わされ、会場の笑いを誘う場面も



第一部会場の一橋記念講堂玄関



会場を埋め尽くす参加者



パネルディスカッション



展示コーナー

しばしばありました。

第一部の後半では、産学連携に関連の深い21世紀COEプログラム4拠点によるプレゼンテーションが、拠点リーダーである水野 猛生命農学研究科教授(「新世紀の食を担う植物バイオサイエンス」)、末永康仁情報科学研究科教授(「社会情報基盤のための音声・映像の知的統合」)、関 一彦物質科学国際研究センター教授(「物質科学の拠点形成:分子機能の解明と創造」)及び三矢保永工学研究科教授(「情報社会を担うマイクロナノメカトロニクス」)により行われました。また、展示コーナーでは、「名古屋大学のプロフィール」と

題して、本学の歴史を振り返る写真、野依特任教授のノーベル化学賞受賞関連の資料、高等研究院の紹介及びキャンパス整備の様子の展示があり、さらに、講演会場では、21世紀COEプログラム13拠点の紹介ビデオも上映され、どちらも好評でした。

第二部は、隣の如水会館に会場を移し、産学連携交流会が開催されました。同交流会では、先端技術関連と21世紀COEプログラム13拠点の研究内容が、展示・実演され、大学院学生や若手研究者も多数参加して、産業界からの出席者に本学の先端研究を紹介しました。また、出展ブースは、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料、基礎の各分野をカバーする計33件でした。

懇親会には、本学OBを含め、産業界などから多数の出席者を迎え、小野元之日本学術振興会理事長、丹羽副会長のあいさつの後、林 義郎ボーダフォン株式会社会長の発声で乾杯し、交流が深められました。最後に、同フォーラム実行委員長の佐々木副総長のあいさつがあり、同フォーラムは盛況のうちに終了しました。



あいさつする小野日本学術振興会理事長



乾杯の発声を行う林ボーダフォン株式会社会長



懇親会



## 環境総合館竣工記念式典が開催される

環境総合館竣工記念式典、施設見学及び祝賀会が、12月12日（金）環境総合館1階レクチャーホール及びラウンジ等において開催されました。

この建物は、環境に関する文系（人）・理学系（自然）・工学系（物）を融合した多様な横断型連携研究・教育プログラムを実施するための中核的な拠点として



環境総合館

計画された文理融合型研究科である大学院環境学研究科の建物として、関係部局の既存施設からのアクセスを考慮し、工学部と理学部の間に建設されたものです。平成14年8月に着工、地上7階、地下1階、延床面積5,960㎡を有し、プレキャスト・プレストレストコンクリート構造による環境負荷低減及び工期短縮、震動・エネルギー環境総合モニタリングシステム（地震計設置等）の導入、日射による熱負荷軽減のため、アルミルーバーで建物の南・東・西面をカバー、多様な教育研究環境の実現のため、設備配管を建物外部に通し、柔軟な平面計画を実現、外部設置の設備配管を外皮としてのルーバーで隠しながら、一体的な建物外観を実現、1階玄関付近を空間的にゆとりあるパブリックスペースとして、レクチャーホールのラウンジとしても活用可能に配置、研究ゾーンの5～7階では、輪講室等の共用スペースを階段等のコア側にまとめ、共用性を高めるとともに、間仕切りをガラスにして中廊下を明るい空間として確保する等の工夫が施された構造になっています。また、4階の全学共用スペースには、全学に公募し、災害対策室及び2件の21世紀COEプログラムプロジェクトの支援室・推進室などが採択されて入居しています。なお、環境総合館という通称名は、全学に公募して選ばれたものです。

式典に先立ち、同館玄関前において、招待者、教職員及び学生が見守るなか、テープカットが行われました。レクチャーホールで行われた式典では、初めに、松尾総長から「全国初の文理融合型研究科として創設された環境学研究科にふさわしい造りであり、念願であった一つの建物の中で一部ではあるが、まとまることができ、今後の教育研究に期待します」との激励のことばが述べられた後、久野環境学研究科長によるあ

いさつ、平井文部科学省大臣官房文教施設部名古屋工  
事事務所長からの祝辞及び岡田施設部長による建設経  
過報告が行われました。また、総長から同館の建設に  
携わった企業の代表者に、感謝状が贈呈されました。

式典後、同館の1～7階の各実験室、災害対策室及  
び講義室等の施設見学、ラウンジにおいて、祝賀会が  
行われました。



玄関・ラウンジ（1階）



レクチャーホール（1階）



大学院学生窓口（2階）



玄関前でのテープカット



## 名古屋大学医工連携シンポジウムが開催される

大学院医学系研究科、大学院工学研究科及び関連研究科・センターは、12月20日（土）、シンポジオンホールにおいて、「名古屋大学医工連携シンポジウム～夢を実現する超最先端医療技術～」を開催しました。

同シンポジウムは、昨年から両研究科において情報交換を行い、互いの研究の交流を深め、異分野融合の可能性を探るため開催してきた医工連携セミナーが6回を数え、これらの取り組みを多くの方に理解してもらい、地域を中心として、医療技術の更なる発展と医療関連産業の活性化を目的として開催されたもので、一般の方や医学、工学の教職員及び大学院学生等約200名の参加がありました。

シンポジウムでは、松尾総長から同シンポジウム開催にあたっての経緯等を交えたあいさつがあり、続いて、神田真秋愛知県知事（久保泰男 愛知県産業労働部長代読）と細川昌彦中部経済産業局長（車田直昭 中部経済産業局産業企画部長代読）から、同シンポジウムに対する期待と、この地域としての今後の医工連携への取り組みについて、後援者を代表してあいさつがありました。その後、医工連携への期待をテーマに、杉浦医学系研究科長と平野工学研究科長が、それぞれ

の立場から現在の状況と今後の展望について説明しました。続いて、大島医学部附属病院長と山本徳則医学系研究科助手による「泌尿器科における内視鏡技術の臨床応用」、石黒直樹医学系研究科教授による「体を創る - 医工連携により生体材料の可能性を拓く -」、小林 猛工学研究科教授による「(熱) + (免疫) (転移ガンもやっつける新しいガン治療法)」及び田中英一工学研究科教授による「ヒトの身体を知り、支援する工学」と題する講演が行われ、医工連携に関する最先端の研究や医療技術の開発について、それぞれ分かりやすく説明されました。

当日は、雪が降るあいにくの天候となりましたが、その中を来場した参加者達は、熱心にメモを取りながら講演を聞き、このテーマの社会的関心の高さと新たな医療技術開発に対する大学への期待の大きさを伺わせました。今後、両研究科では、このシンポジウムをきっかけに、経済界・官界とも、より綿密な意見交換を行い、更なる産学官連携を推進していくとともに、医工連携研究の拠点としての役割を担っていくことにしています。



あいさつをする松尾総長



神田愛知県知事のあいさつを代読する久保産業労働部長



細川中部経済産業局長のあいさつを代読する車田産業企画部長



## 地下鉄名城線「砂田橋 - 名古屋大学」間が開通する

名古屋市営地下鉄名城線（4号線）の砂田橋 - 名古屋大学間（4.5キロ）が、12月13日（土）に開通しました。これにより、本山経由での本学へのアクセス時間が大幅に短縮され、教職員や学生の通勤、通学が大変便利になりました。

新たに、茶屋ヶ坂駅、自由ヶ丘駅ともに開業した「名古屋大学」駅は、全国でも珍しく、大学構内に設けられています。このため、名古屋市交通局と本学が協力して、大学構内の景観にあったデザインになるように配慮しました。なお、残る「名古屋大学 - 新瑞橋」間は、平成16年度完成の予定で、開通すれば、全国初



名城線「砂田橋 - 名古屋大学」間開通

の地下鉄環状線が実現します。

開通前日には、開業式典が名古屋大学駅で、祝賀会が本山駅で行われ、本学からは、松尾総長はじめ、伊藤副総長、佐々木副総長、中島副総長等が出席し、開通を祝いました。

また、当日及び翌14日の2日間、開通を記念したコリカ、切手及びグッズ等の販売をする市交通局、郵便局及び本学消費生活協同組合（名大生協）とともに、企画広報室員が名古屋大学駅コンコースで、本学が実施する地下鉄開通記念イベントのチラシ（医工連携シンポジウム（6頁参照）、学内展覧会 strange x familiar）、リーフレット、キャンパスマップ等を配布し、本学をアピールしました。両日とも、多くの市民が同駅を訪れ、キャンパスマップを手に取り、大学構



名古屋大学駅でキャンパスマップ等を配布する企画広報室員

内を散策する姿も見られました。

さらに、地下鉄開通により、多くの市民が本学を訪れることが予想されるため、広報プラザ内に置かれていた「名古屋大学総合案内所」を守衛所を一部改装して開設しました。松尾総長が、開業記念行事に出席する前に、同案内所を立ち寄り、職員に激励の言葉をかけました。

なお、本学では、今後も地下鉄開通を記念したコンサートやシンポジウムが予定されています（詳細については、「イベント等の開催予定一覧」（13頁）をご覧ください）。



総合案内所に立ち寄る松尾総長



## 大学院生命農学研究科が アジア農科系大学連合理事会を開催する

大学院生命農学研究科は、12月4日（木）、アジア農科系大学連合（Asian Association of Agricultural Colleges and Universities（AAACU））理事会を開催しました。

AAACUは、1972年に設立され、アジア諸国における農林水産業の健全な発展に貢献するために、農学分野における学術の振興を図ることを目的として活動しており、隔年で開催される大会は、地域集会とならび、AAACUの活動の根幹を成しています。2002年、タイのチェンマイで開催された第14回大会で、第15回大会を本学において開催することが決定され、現在、本学では大会組織委員会を組織して、計画、立案及び準備にあたっています。

同理事会には、会長の Pongsak Angkasith チェンマイ大学副総長、副会長の山本生命農学研究科長、

Arsenio M. Balisacan 東南アジア文部大臣機構農業高等研究地域センター（SEARCA、AC21メンバー校）所長、Pedro D. Destura 東フィリピン大学学長、Dang Vu Binh ハノイ農業大学学長等が出席し、活動・財務報告及び事業計画等を審議しました。

理事会終了後、一行は、松尾総長を表敬訪問しました。総長の歓迎の言葉の後、山本研究科長からメンバー紹介があり、AAACU等について意見交換を行いました。

なお、本学が担当する第15回大会は、「アジア農科系大学連合における遠隔教育のための E-learning System の確立」をテーマに、2004年9月27日から30日までの4日間、シンポジオンホールを会場に開催される予定です。



AAACU 理事会の様子（農学部大会議室）



総長表敬訪問での記念撮影



## 年代測定総合研究センターと大学院文学研究科考古学研究室が 第5回考古科学シンポジウムを開催する

年代測定総合研究センターと大学院文学研究科考古学研究室は、11月22日（土）文学部237講義室において、第5回考古科学シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、考古学と自然科学による学際的な研究成果を報告するもので、これまでの4回は、東京で開催されてきました。しかし、縄文・弥生・古墳時代の考古資料について加速器質量分析法（AMS）による $^{14}\text{C}$ 年代測定を適用した研究の成果が、近年、学会に限らず広く一般にも注目されている状況のなか、 $^{14}\text{C}$ 年代と考古学的編年を主要なテーマとする今回のシンポジウムについては、国内で最も早くからAMS $^{14}\text{C}$ 年代測定に取り組んできた本学で開催することになったものです。

当日は、研究者や学生を含め、100名を超える参加があり、小林紘一日本AMS研究協会会長のあいさつに続き、名古屋地区における考古科学への取り組みとその成果に関する講演が、中村俊夫年代測定総合研究センター教授、山本直人文学研究科教授及び鬼頭剛愛知県埋蔵文化財センター研究員からありました。



熱心に講演を聴く参加者



パネル討論

午後には、土器型式による考古学的な編年とAMS $^{14}\text{C}$ 年代による自然科学的な編年との融合について、春成秀爾国立歴史民俗博物館教授、今村峯雄国立歴史民俗博物館教授及び小田寛貴年代測定総合研究センター助手による講演があり、続いて、春成氏、森岡秀人芦屋市教育委員会学芸員、車崎正彦早稲田大学シルクロード調査研究所客員研究員及び赤塚次郎愛知県埋蔵文化財センター主査をパネリストとして、「弥生時代の終焉を考える（1～3世紀の考古観）」と題したパネル討論が行われました。

同シンポジウムで行われた活発な討論は、考古学だけ、あるいは自然科学だけでは見えなかった歴史像を考古学と自然科学との学際的な研究により明らかにする確実な一歩となりました。



## 博物館が第29回特別講演会を開催する

博物館は、第29回特別講演会として、11月26日（水）服部 仁氏（日本大学非常勤講師、元地質調査所地質部長）による「生きている石と私たち：都市空間の石材・石造文化財の未来は？」と題する講演を開催しました。

講演で、服部氏は、45名ほどの参加者を前に、日頃私たちが何気なく見たり触れたりしている石材に焦点を当て、昔と今の石材の使われ方の変化やその問題点について紹介しました。特に、現代社会は、膨大な量の輸入石材を様々な形で生活空間に活用していること、またそれらの石材は、一見何ら変化していないように見えても、実は予想以上に風化や変質が進んでいることなどを、アンコールワットや万里の長城といった石材の使用例の写真などを使ってわかりやすく説明しました。この中でも、都市部における都庁のような超高層ビルの外壁に用いられている石材の風化による劣化は、大気汚染などの影響とも結びついて非常に深刻な問題となっており、地震時の強度問題とも併せて早急に対処すべき問題であることが述べられました。

講演後、参加者から、このような問題に対してどう対処すべきなのか、あるいは現代人が昔の人に比べ、石の持つ素材そのものの性質を理解できなくなっているのではないかなどといった様々な観点からの質問が出され、これを基に活発な議論が行われました。



講演する服部氏



## 博物館が地下鉄開通記念コンサートを開催する

博物館は、地下鉄名城線「名古屋大学駅」のオープンを記念して、本学消費生活協同組合（名大生協）と共催で、12月12日（金）の夕刻に、地下鉄開通記念 第10回博物館コンサート（NUMCo）を開催しました。当日は、260名を超える参加があり、会場の博物館展示室は、3階の踊り場まで満員となりました。今回のコンサートでは、長谷川勝男多元数理科学研究科教授（ヴィオラとピアノ）と、伊藤歌奈氏、安藤郁乃氏（ヴァイオリン）、富岡秀雄氏（チェロ）、長谷川美玲氏、中沖玲子氏（ピアノ）の本学ゆかりの5人のメンバーによる演奏が行われました。

コンサートは、映画「千と千尋の神隠し」の弦楽四重奏から始まり、モーツァルトのピアノ四重奏で前半が終了しました。休憩時には、クリスマスソングが演奏されるなか、地下鉄開通記念のラッキーナンバーが発表され、前夜祭の12月12日にちなんだ12個の記念品が名大生協から当選者にプレゼントされました。後半には、本学教育学部附属中学・高校出身で、現在パリ・エコール・ノルマル音楽院教授の中沖玲子氏によるピアノの特別演奏が行われ、ショパンの「ノクターン」、ラヴェルの「鏡」及びデュティユの「コラルと変奏」の素晴らしい音色に、満員の聴衆は酔いしれました。最後に、中沖氏と長谷川教授によるピアノの連弾があり、2時間にわたるコンサートは、幕を閉じました。



連弾をする中沖氏と長谷川教授



満員のコンサート会場



## 農学国際教育協力研究センターが 2003年度第3回オープンセミナー を開催する

農学国際教育協力研究センターは、12月16日(火)「保護区管理のツールとしての環境教育の役割について」をテーマに、2003年度第3回オープンセミナーを開催しました。講師は、現在 JICA 長期専門家(環境教育)としてケニア共和国野生生物公社に配属されている今栄博司氏で、自らが1992年から現地調査してきたザンビアや現在調査中のケニアの事例に基づき、保護区管理の一つのツールとしての「環境教育」に期待される役割について話を聞きました。今栄氏は、「世界には様々な保護区が存在しますが、その目的や意義は、生態系保護や資源の持続的利用など多様です。それぞれの保護区が属する社会の様々なニーズを満たそうとすると、保護区はその中に含まれる資源を巡って多種多様な思惑が入り乱れる場となります。保護区の適切な管理に当たっては、保護区の秘める可能性やその管理に伴うコストの全体像を把握し、その上で適切なバランスを見出すことが重要である」と話しました。今回のセミナーには、本学関係者だけではなく、他大学の学生や一般の方の参加があるなど総勢26名が集い、活発な意見交換が行われました。

なお、今年度第2回オープンセミナーが9月25日(木)開催され、昨年7月1日から9月末まで同センター客員教授として滞在し、マダガスカルでは農業省の事務次官補佐として、農業発展のための政策立案の中核で活躍していたハリリア アラジオリニア アンドリアナナ氏が、「マダガスカル：経済事情と観光・農業普及活動と土壌保全」をテーマに話をし、これを基に、13名の参加者と議論が行われました。



第3回オープンセミナーの様子



## 総長等表敬訪問一覧

海外等から総長等を表敬訪問された方々は、次のとおりです。(平成15年10月～12月)

月日	学校等	国	代表者	来学の目的
10. 2	AICAD (アフリカ人造り拠点研究所)	ケニア	Andrew Barde GIDAMIS AICAD 事務局 長他 2 名	学術交流協定に基づく交流拡大について懇談を行うため(農学国際教育協力研究センター)
10. 7	ウォリック大学	イギリス	John Jone 副学 長	大学改革及び国際交流について懇談を行うため(国際交流課)
10. 16	木浦大学校	韓国	Cho, Kee-jung 企画研究処長他 2 名	国立大学法人化に伴う人事制度、会計制度の調査のため(国際交流課)
10. 22	中国政法大学	中国	朱 勇副学長他 3 名	学術交流の活動の促進について懇談を行うため(大学院法学研究科)
11. 5	ボンゼシヨセ工科大学	フランス	Pierre Veltz 学 長	AC21及び国際交流について懇談を行うため(AC21)
12. 1	ケンブリッジ大学	イギリス	James Mirrlees 教授(1996年 ノーベル経済学 賞受賞)	「日本経済政策学会第2回国際会議」及び「名古屋大学オープンフォーラム」における講演のため(大学院経済学研究科)
12. 4	SEARCA (東南アジア文部大臣機構農業高等研究地域センター)	フィリピン	Arsenio M. Balisacan セン ター長他 7 名	第15回アジア農科系大学連合理事会出席のため(大学院生命科学研究科)
12. 11	東北大学	中国	赫 冀成学長	学術、学生交流の促進のための意見交換及び「材料電磁プロセス」に関する研究打ち合わせのため(大学院工学研究科)



松尾総長と懇談する赫東北大学学長(左から二番目)



## 年末の屋外清掃が実施される

年末の屋外清掃が、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。これは、構内の美化運動の一環として、実施されているもので、部局ごとに構内の除草や清掃などが行われました。

事務局では、12月19日（金）、約80名の事務局職員が一齐に東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれ、清掃、側溝に詰まった泥土、枯れ葉の除去及び不要な立看板、ビラ等の撤去等の作業を行いました。事務局職員は、寒空のもと、防寒着を身にまとい、構内に落ちている多くの枯れ葉を一生懸命に収集していました。



各々の清掃場所に向かう事務局職員  
(事務局2号館玄関前)



側溝の枯れ葉を収集する事務局職員



## 第26回名古屋大学 OB・職員懇談会が開催される

第26回名古屋大学 OB・職員懇談会が12月5日（金）シンポジオンホールにおいて開催され、OB101名及び現職51名が出席しました。

この懇談会は、本学 OB（本学の課長補佐、事務長補佐、専門員以上の職にあった者で、離職又は転出した職員）と本学の事務局長はじめ部長・課長・事務長等との相互の交流を深め、また本学の運営に資することを目的として、昭和53年から毎年開催されているものです。

懇談会は、松尾総長による大学の現状等の報告を兼ねた歓迎のあいさつで始まり、山本 鉾元事務局長（学校法人三浦学園監事）及び内田弘保元事務局長（日本育英会理事長）のあいさつに続いて、渡橋事務局長の発声で乾杯しました。

会場では、あちらこちらで会員らが旧交を温め、また西尾理弘元事務局長（出雲市長）からの近況報告が行われるなど、終始和やかな雰囲気の中で懇談が行われました。



左から、大泊元庶務課課長補佐、遠藤元企画課長、内田元事務局長、松尾総長、渡橋事務局長、山本元事務局長、西尾元事務局長

INFORMATION

イベント等の開催予定一覧

イベント	日時	概要	連絡先
第3回名古屋大学博物館企画展「野外观察園の植物たち」(地下鉄開通記念イベント)	1月21日(水) ～2月20日(金) 10時～16時	会場：博物館展示室 休館日：月、火曜日	博物館事務室 052-789-5767
オープンカレッジ「自由奔放！サイエンス」	2月7日(土) 10時～12時	「大学で見る宇宙の夢：宇宙物理学の現場から」 福井康雄理学研究科教授 会場：経済学部第1講義室	大学院経済学研究科・竹内信仁研究室 052-789-2365
新しい癌治療法 “Heat Immunotherapy”の開発に関するシンポジウム	2月10日(火) 10時40分～17時15分	大学院工学研究科・小林 猛研究室が開発した「磁性微粒子を用いたがんの温熱免疫療法“Heat Immunotherapy”」について、本技術を取り巻く周辺技術の紹介と本技術の特徴を議論する。 会場：シンポジオンホール	本多裕之工学研究科 助教 052-789-3215
エコトピア科学研究機構プレシンポジウム	3月3日(水)午後、 3月4日(木)終日	会場：シンポジオンホール	工学部・大学院工学研究科総務課 052-789-3404
大学院文学研究科公開シンポジウム「今、開かれる文庫の魅力」(地下鉄開通記念イベント)	3月13日(土) 10時30分～16時	会場：文学部237講義室	文学部・大学院文学研究科庶務掛 052-789-2202

本学関係の新聞記事掲載一覧(15年12月分)

	記事	月日	新聞等名
1	明日の人に：池田輝政・高等教育研究センター教授 法人化まず設計図必要	12.1(月)	読売
2	時のおもりに：池内了・理学研究科教授 二世や三世が活躍する国毛並みより実力の政治家を	12.1(月)	中日(朝刊)
3	医学と工学部門がタッグを組み、先端医療の最前線を紹介する「名古屋大医工連携シンポジウム・夢を実現する超先端医療技術」を開催	12.2(火) 12.4(木) 12.12(金) 12.16(火)	中日(朝刊) 他2社
4	名城大農学部公開講演会「生物資源と環境」その3 同大特任教授・大島光昭・本学名誉教授が講演	12.2(火)	中日(朝刊)

	記事	月日	新聞等名
5	公開シンポ・理数系教育の再生を目指して 中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授などが「学校教育現場からの提案」として報告	12.2(火)	中日(夕刊)
6	来年度の学生募集要項を発表 法科大学院の新設に伴い法学部定員25人減	12.3(水)	朝日(朝刊) 中日(朝刊)
7	ノーベル経済学賞受賞者・ジェームズ・マーリーズ・英ケンブリッジ大教授 経済学研究科が開催した名大オープン・フォーラムで講演	12.3(水)	読売
8	ロボット競技の五輪 万博と同時開催構想 大熊繁・工学研究科教授を代表に発足した「ロボフェスタ2005発起人会」が提唱	12.3(水)	日経(夕刊)

	記 事	月 日	新聞等名
9	名古屋大学東京フォーラム 21世紀 COE プログラムに採択された研究の PR を中心に、実績などを企業人らに披露する 野依良治・特任教授による基調講演やパネルディスカッションなど	12.3(水) 12.10(水) 12.16(火) 12.18(木)	中日(夕刊) 他3社
10	老年学：井口昭久・医学系研究科教授 体内時計上手に調節を	12.4(木)	朝日(朝刊)
11	検証・大学改革：やる気導く仕掛け腐心 本学では来年度から学年歴を大幅に改めることを決めた	12.4(木)	読売
12	名工大「改革派」学長、突然の辞任劇 各大学の受け止め方 平野真一・本学次期総長「リーダーシップも大切だが学内の意見のくみ上げをより重視したい」と強調	12.4(木)	朝日(朝刊)
13	愛知県立大学は森正夫学長の後任に佐々木雄太・本学副総長を選任	12.4(木) 12.5(金)	日刊工業 他4社
14	中部地区法科大学院特集：名古屋大学法科大学院「新たな社会の法曹養成を目指して」河野正憲・法学研究科長	12.5(金)	日経(朝刊)
15	本多裕之・工学研究科助教らが開発した遺伝子データを使う診断ソフト 名古屋産業科学研究所などが発売	12.5(金)	毎日(朝刊)
16	巨大地震の時代：ニュージーランドから学ぶ活断層研究 安藤雅孝・環境学研究科教授「町づくり自体も地震を意識したものになっていた」	12.6(土)	サンケイ
17	名古屋大学落語研究会「名人会」珍々亭芸などが出演	12.6(土)	中日(朝刊)
18	「平成の市町村合併と地域問題」をテーマに名古屋・岐阜の地理学会が合同シンポ 林上・環境学研究科教授による基調講演など	12.7(日)	中日(朝刊)
19	今年9月に死去した江口圭一・愛知大名誉教授を偲ぶ会 森英樹・法学研究科教授らが出席	12.7(日)	中日(朝刊)
20	増子記念病院「健康増進・運動療法講座」 島岡清・総合保健体育科学センター教授らが講演	12.7(日)	中日(朝刊)
21	大学サークル就職支援 本学は学生中心の就職支援団体「Onn」が就職資料室で後輩たちの「相談役」を務めている	12.7(日)	朝日(朝刊)
22	この人に聞きたい：平野真一・法人化後初の総長 国際的に一流と評価されるよう努めたい	12.8(月)	毎日(朝刊)
23	人間発見 ひとり荒野を - : 本学名誉教授・赤崎勇・名城大教授 世界で初めて青色発光素子を光らせた	12.8(月) 12.9(火) 12.10(水) 12.11(木) 12.12(金)	日経(夕刊)

	記 事	月 日	新聞等名
24	定形衛・法学研究科教授 イラクへの自衛隊派遣 米の後追い現地に誤解	12.9(火)	中日(朝刊)
25	すずの発生や成長の状態を詳細に測定する方法を中村祐二・理工科学総合研究センター講師らが開発	12.9(火)	中日(朝刊)
26	愛知高齢社会をよくする会 井口昭久・医学系研究科教授が講演	12.9(火)	中日(朝刊)
27	地下鉄4号線(名城線)砂田橋-名古屋大学駅13日開通	12.10(水) 12.12(金) 12.13(土) 12.14(日)	読売 他4社
28	福田敏男・工学研究科教授らの研究グループ 脳血管を精密に再現した立体モデルを開発	12.12(金)	日経(朝刊)
29	紙上診察室：後藤百万・医学部泌尿器科講師	12.12(金)	中日(朝刊)
30	フセイン元大統領の拘束 識者の見方：プッシュ再選へ利 中西久枝・国際開発研究科教授	12.15(月)	中日(夕刊)
31	この人に聞く：山本芳幸・法学研究科助教 人道援助の危機 イラク復興支援 中立のイメージ維持必要	12.16(火)	中日(朝刊)
32	現代美術作家6人による学内展覧会「strange x familiar」 留学生センターなどで開催	12.16(火)	朝日(朝刊)
33	市民講座「住基ネットと監視社会 - 個人情報丸裸になる」 池内了・理学研究科教授などが講演	12.16(火)	中日(朝刊)
34	学生街ダンス：留学生の夕べ 大合唱で心一つに 3年・藤井亜矢子	12.16(火)	中日(朝刊)
35	大気中でプラズマを使いシリコンを加工する技術などを後藤俊夫副総長、堀勝・工学研究科助教らのグループが世界で初めて開発	12.17(水)	読売 他2社
36	菅井秀郎・工学研究科教授らが超高感度に密度計測できるプラズマセンサーを開発	12.17(水)	日刊工業 中日(朝刊)
37	UFJ銀行が本学の主力取引銀行に内定 来年4月法人化で関係強化	12.17(水)	中日(朝刊)
38	「みんなでとめよう！教育基本法と憲法の改憲を」と題した集会在本学で行われた	12.17(水)	中日(朝刊)
39	富士通などと組んで国内最大級の遠隔教育システムを構築	12.18(木)	日経(朝刊)
40	私の視点：伴信太郎・医学系研究科教授 地域医療「統合する専門医」育てよ	12.19(金)	朝日(朝刊)
41	総合保健体育科学センター長に島岡清教授を選出	12.19(金)	中日(朝刊)
42	コーナーキック：森田美弥子・教育発達科学研究科教授 「美しく、かつ強く」の世界	12.19(金)	中日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
43	浪川幸彦・多元数理科学研究科長の数楽、数が苦 : 地図 身の回りにある数の世界	12 22(月)	中日(朝刊)
44	名大サロンの主役: 大峰巖・理学研究科長「水、水、水 - 水の多様性、水はいかに運動し、変化し、凍るか?」と題し講演「水の凍結」秘密を探る	12 23(火)	中日(朝刊)
45	学生経営カフェ「est」開店 学生、経済学を实践 代表は経済学科4年・岩田義道	12 23(火)	中日(朝刊)
46	医学部の第1回21世紀 COE シンポジウム「名古屋大学発の新規治療法の開発を目指して」を開催	12 23(火)	中日(朝刊)
47	学生街ダンス: ホームページ作成 夢中...苦勞が実る 2年・長谷川佳美	12 23(火)	中日(朝刊)
48	College mode: クリスマス・ウィズ・ベイビーフェイス 3年・藤井亜矢子	12 23(火)	中日(朝刊)
49	ニュートリノ検出フィルム設備を東濃鉱山に完成 理学部がEUなどと共同で行うニュートリノ研究「OPERA」の一環	12 25(木)	中日(朝刊)

	記 事	月 日	新聞等名
50	血液の病気 5歳のイラク男児 医学部附属病院が受け入れ治療へ	12 25(木) 12 27(土)	中日(朝刊) 朝日(夕刊)
51	市民公開講座「高齢者における生活習慣病の予防と運動」主催: 佐藤祐造・総合保健体育科学センター教授「運動療法の一層の普及を」とあいさつ	12 25(木)	中日(朝刊)
52	アップデート2003一年を振り返る: 茂登山清文・情報科学研究科助教授「相変わらず採算性優先」	12 26(金)	朝日(夕刊)
53	生田幸士・工学研究科教授らが新型内視鏡を試作 治療範囲広がり、患者の負担軽減	12 29(月)	日経(朝刊)
54	来年3月にオープンする「国立長寿医療センター」初代総長に大島伸一・医学部附属病院長が内定	12 30(火) 12 31(水)	中日(朝刊) 読売
55	吉村崇・生命農学研究科助手らの研究チーム 鳥類繁殖メカニズムを解明	11.13(木)	東奥日報社 他3社

本誌に関するご意見・ご要望・記事の掲載などは企画広報室にお寄せください。

総務部 企画広報室 企画広報掛

電話: 052 ( 789 ) 2016

FAX: 052 ( 789 ) 2019

E-mail: kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

## ②汪兆銘（汪精衛）の梅

本学大幸地区（名古屋市東区）の大幸医療センター内には、「汪兆銘の梅」と呼ばれる二本の梅の木があります。これらの梅は、もとは鶴舞地区（名古屋市昭和区）の医学部中庭に植えられていたものですが、医学部建物の改修工事等の関係で移植されたものです。

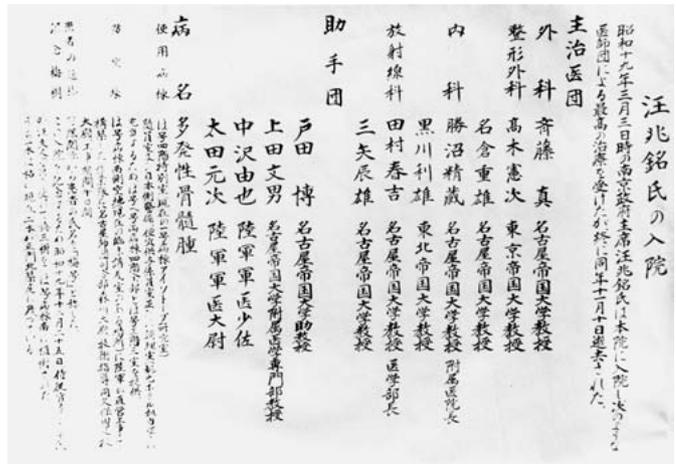
汪兆銘（1883 - 1944）は中国広東省生まれの政治家で、清朝末期に日本へ留学し法政大学を卒業しています。彼は、孫文の中国革命同盟会のメンバーで、国民党左派の重鎮でした。孫文の死後、汪は国民政府主席として国民党政権を指導しましたが、日中戦争後は親日派として、対日派の蒋介石と対立しました。1940（昭和15）年には日本の支援により南京国民政府を樹立しました。

1943年、汪は、南京の日本陸軍病院で以前受けた凶弾の摘出手術を受けました。しかし、手術後の経過が思わしくなかったため翌年3月に来日し、名古屋帝国大学附属病院で再手術を受けました。このことは、暗号「梅号」と呼ばれて一般には公表されませんでした。しかし、彼の病気は多発性骨髄腫であったため、治療の甲斐もなく同年11月に附属病院内で死亡しました。

「汪兆銘の梅」は、汪の死後、治療に対する感謝として遺族から寄贈されたものです。彼が梅をこよなく愛していたためといわれています。梅は当初三本ありましたが、のちに一本が枯れたため現存するのは二本となっています。



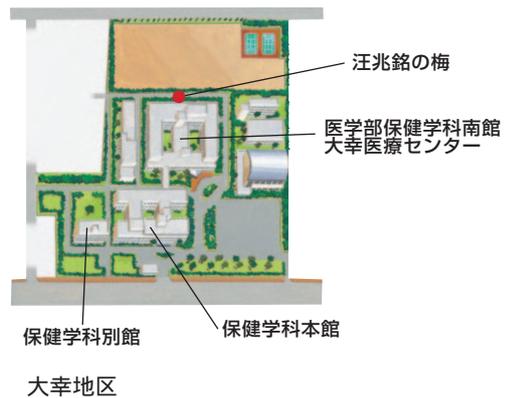
汪兆銘（附属図書館医学部分館所蔵）



汪兆銘の死亡を伝える掲示（附属図書館医学部分館所蔵）



鶴舞地区に植えられていた頃の「汪兆銘の梅」



名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物等に関する情報をお持ちでしたら、  
大学史資料室（052-789-2046、nua\_office@cc.nagoya-u.ac.jp）へご連絡下さい。